

編集後記

編集長 小 西 敦

昨年の編集後記にも書かせていただきましたが、2021年8月末現在、なお、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況が続き、医療環境がひっ迫する中で、医療関係者をはじめといたしたくさんの方々が、昼夜を問わず、ご尽力をいただいていることに、感謝いたします。

本研究科においても、八木健祥研究科長をはじめとして教職員が様々な工夫を凝らし、こうした状況にできるだけ適応した教育・研究環境を整え、院生の皆さんの学びを支援しています。

本研究科の特徴として、経営系、情報系、観光系、そして公共政策系が、それぞれの系の高度な専門性を徹底的に追求しつつ、他の系の知見も活用して、社会に実践的な影響を与え得る研究・教育を行っています。本誌を含め本紀要にこれまで掲載された論文にも、そうした特徴が反映されたものが数多くあります。

本誌の投稿者、巻頭言をご執筆いただいた八木研究科長、査読・主査・副査の先生方、本誌の発行にご尽力くださった皆さま、特に、困難な環境下において発刊に至る諸調整等をしてくださった大久保誠也先生にお礼を申し上げます。

感染症対策は、政策的な要素が濃い事案ですが、経営、データサイエンス、観光マネジメントのいずれの知見も、有効な対策を創出し、それを円滑に実施し、その実効性を確保するためには、不可欠だと思います。現在は、知の総合力が試されているときと感じています。

これからも本紀要が本研究科の紀要としての役割を果たせるよう、様々な専門性に立脚し、知の総合力が発揮された意欲的な論文等のご寄稿をお待ちしております。